

段差解消機

NEW **独立宣言**  
**おでかけ宣言**

品番：DSNO-A  
DSNO-B

取扱説明書

保証書つき

保管用



- 本製品の機能を十分ご理解いただき、安全にご使用いただくために、この取扱説明書をお読みのうえ、正しくお使いください。
- この説明書は大切に保管し、必要なときお読みください。

# 安全上のご注意

必ずお守りください。



## 警告



- 下記の人がひとりで使用するとき、必ず周囲の人が注意・介護する  
(1) お年寄り (2) 体の不自由な人 (3) お子様  
事故や体調不良を起こすおそれがあります。
- 周囲に人がいたり、物がある場所では十分に注意する  
昇降時・回転時、収納時、座部がまわりの人に当たってけがをさせたり、  
すわっている人がまわりの物に当たってけがをするおそれがあります。  
特に下降時は、座板の下に何も無いことをご確認ください。
- 使用時は、必ず脚を取り付ける  
転倒し、けがをするおそれがあります。
- 施工時は、アンカーボルト等で必ず固定する (DSNO-B)  
転倒し、けがをするおそれがあります。
- 座板が回る状態での上下動・立ち座りはしない  
座部が回転して、すべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。
- 上下動時は、下記の事に気をつける  
下降時、座板の下に何も無いこと。足などを座板の下に入れないこと。  
上昇時、背もたれや肘、頭の上方に何も無いこと。  
けがや故障の原因になります。



## 禁止

- 不安定な場所で使用しない  
転倒し、けがをするおそれがあります。
- 踏み台にしたり、肘掛けに座るなど、目的以外の使い方をしない  
足をすべらせたり、本体が転倒し、けがをするおそれがあります。
- 許容荷重 (100kg) 以上の体重の人は使用しない  
座板が破損・故障し、けがをするおそれがあります。
- ひざに座らせたり等、ふたり以上で座らない  
転倒したり、座板から落ちるなど、けがをするおそれがあります。
- 座板下降時、座板の下に足などを入れない  
座板と本体ベースや床の間にはさまれて、けがをするおそれがあります。
- 座板の端に座ったり、片側だけに衝撃や負担をかけない  
座板からすべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。
- 勢いよく座部を回転させない  
座板からすべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。
- 座板に飛び乗ったり、故意に勢いをつけて座ったりしない  
座板が破損・転倒し、けがをするおそれがあります。
- お子様を本体の上で遊ばせたり、背もたれや肘掛けの上に乗ったり座ったりさせない  
座板から落ちたり、本体が転倒し、けがをするおそれがあります。
- 本体を持ち上げて運ぶ際は、2人以上で行い、必要以上の衝撃を与えない  
本体が破損し、故障の原因となります。
- フットパイプの上には立たない  
フットパイプからすべり落ちたり、転倒して、けがをするおそれがあります。



## 分解禁止

- 分解・修理・改造は絶対にしない  
発火したり、異常動作してけがをするおそれがあります。





## 指に注意




- 昇降時や回転時、隙間に指などを入れない  
指などはさみ、けがをするおそれがあります。
- 座板の収納時、収納された座板を元に戻す時は、可動部に指などを入れない。  
指などはさみ、けがをするおそれがあります。  
また、折り畳んだ座板の落下には注意してください。





お使いになる人や、他の人への危害や財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただき内容を次の要領で説明しています。

■説明内容を見逃し、誤った使いかたをしたときに生じる危険や損害の程度を、下の表示（絵表示と用語）で区分し、説明しています。

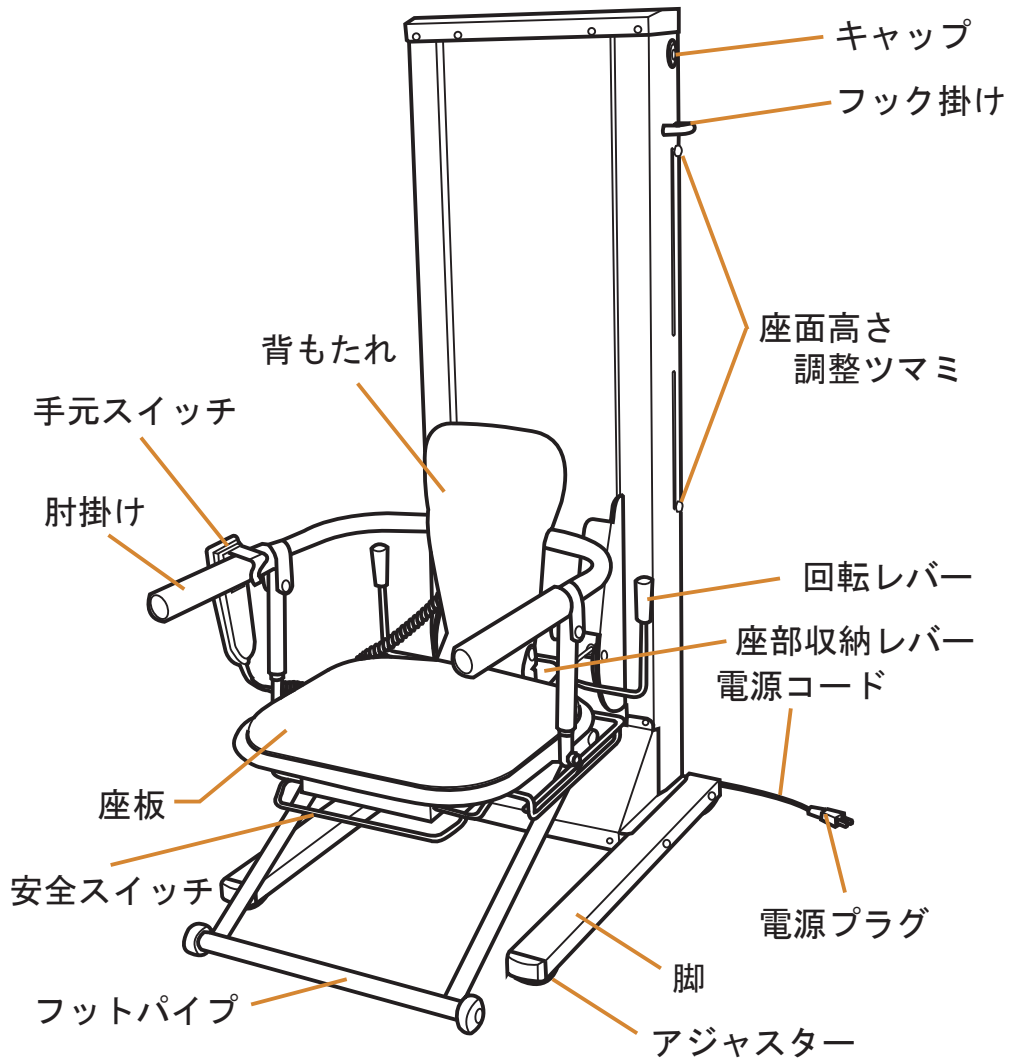
 <b>警告</b>	誤った使いかたをすると「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を説明しています。
 <b>注意</b>	誤った使いかたをすると「傷害または財産への損害が発生する可能性が想定される」内容を説明しています。

■お守りいただきたい内容の種類を、次の絵表示（図記号）で区分し、説明しています。（下記は絵表示の例です）

 気をつけていただきたい「注意喚起」内容を説明しています。	 してはいけない「禁止」内容を説明しています。	 必ず実行していただく「強制」内容を説明しています。
--	--	---

 <b>注意</b>	
 <b>禁止</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●屋外や高温・多湿な場所で使用・保管しない 感電および故障の原因になります。</li> <li>●火気を近づけない 発火のおそれがあります。</li> <li>●人が座ったまま本体を移動させない 転倒・衝突などにより、けがをするおそれがあります。</li> <li>●交流100V以外では使用しない 火災や感電の原因になります。</li> <li>●2分以上の連続使用はしない 故障の原因になります。 連続運転が2分以上におよんだ時は、10分以上休止させてください。</li> <li>●電源プラグにゴミ・水分を付着させない 感電やショート、発火のおそれがあります。</li> <li>●電源コードを傷つけたり、破損させたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしない 火災や感電の原因になります。</li> <li>●コードを無理に引っ張らない 破損し、故障の原因になります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電源プラグは、確実に最後まで差し込む ショートや発火のおそれがあります。</li> <li>●濡れた手で電源プラグを持たない 感電のおそれがあります。</li> <li>●濡れた手で手元スイッチにさわらない ショートや異常動作のおそれがあります。</li> </ul>
 電源プラグを抜く	<ul style="list-style-type: none"> <li>●動かない場合や、異常を感じたときは使用を中止し、すぐに電源プラグをコンセントから抜く 感電や発火のおそれがあります。 ただちに点検修理を依頼してください。</li> <li>●お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜く 感電ややけどのおそれがあります。</li> <li>●使用時以外は、電源プラグをコンセントから抜く 絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。</li> <li>●電源プラグをコンセントから抜くときは電源コードを持たず、必ず電源プラグを持って引き抜く 感電やショート、発火のおそれがあります。</li> </ul>

# 各部のなまえ



## 付属品

### 共通付属品



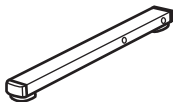
六角棒スパナ（対辺6）・・・1ケ



六角穴付きボタンスボルト（M8×L65）・・・4ケ

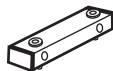
取扱説明書（本紙）・・・1ケ

### DSNO-A付属品



脚（アジャスター付き）・・・2ケ

### DSNO-B付属品



脚・・・2ケ



ワッシャー・・・8ケ

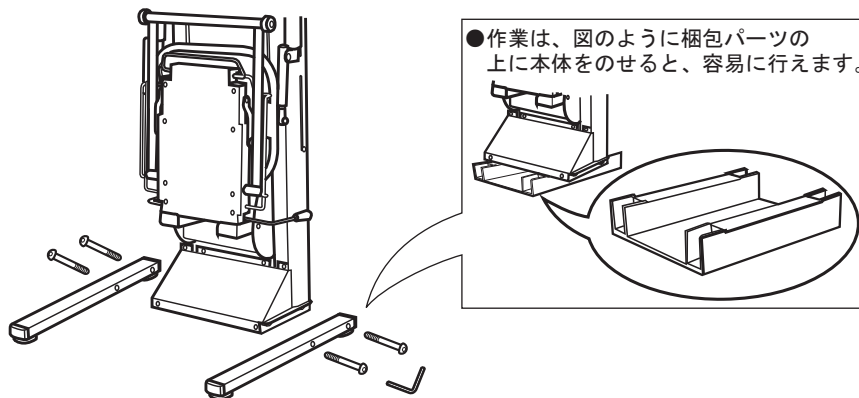
# 設置のしかた

## 組立手順

※組立作業を行なう時には、座部を収納している状態で行なってください。

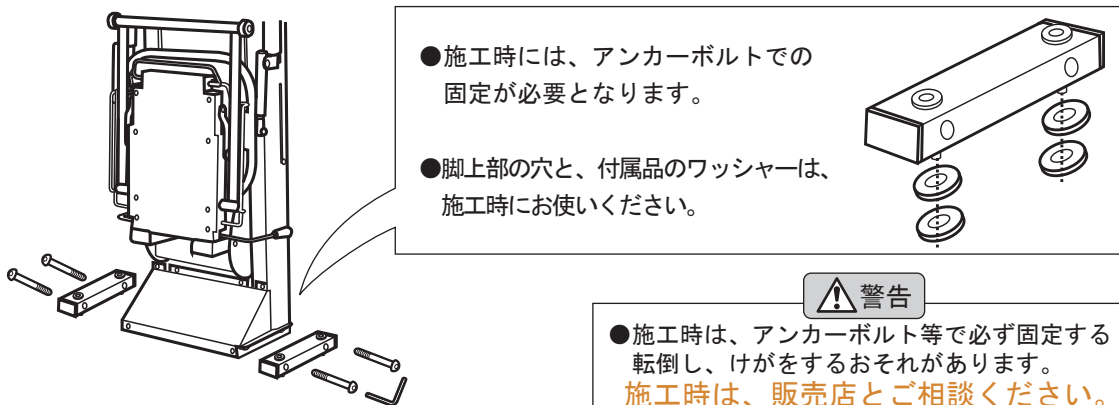
DSNO-A

- 本体に左右の脚を、六角穴付きボタンプルト (M8×65) でしっかりと固定してください。(4ヶ所)



DSNO-B

- 本体に左右の脚を、六角穴付きボタンプルト (M8×65) でしっかりと固定してください。(4ヶ所)

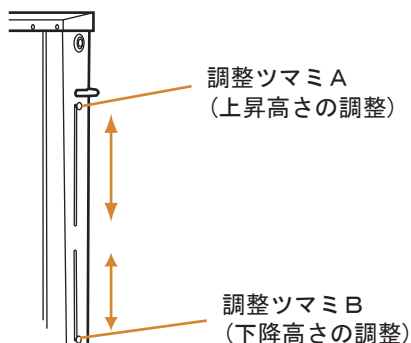


## セットアップ

設置前に可動範囲内に干渉するものがないか十分確かめてください。

- DSNO-A 床面と本体のガタつきは、脚裏にあるアジャスターで調整してください。
- DSNO-B 施工時はアンカーボルトの固定が必要となります。販売店にご相談ください。

### 座面高さの調整



- 本体横にある調整ツマミを上下させることにより、座面の最低・最高高さをあらかじめ設定できます。
- AとBの黒いツマミを回してゆるめ、  
Aのツマミでは座面最高高さ (床面より620~870mm)  
Bのツマミでは座面最低高さ (床面より290~470mm)  
の範囲で調整ができます。  
合わせた後、A・Bのツマミを締めて下さい。

# こんなときは…

## 座部が上下しないとき

- 電源プラグが抜けていませんか？
- 下降しない 座板下の安全スイッチが働いていませんか？  
→座板の下に足や物などを確認してから、手元スイッチを操作してください。  
下降高さの調整が適切ですか？  
→調整つまみBを適切な高さに再調整してください。
- 上昇しない 上昇高さの調整が適切ですか？  
→調整つまみAを適切な高さに再調整してください。

## 点検後、なお異常があったら

ただちに使用を中止し、事故防止のため必ず販売店に点検・修理を依頼してください。

## 座部の動く速さが遅いとき

- 周囲温度が低いときに使用した場合、座板の動く速が遅くなる場合がありますが故障ではありません。  
座板に座らない状態で、1往復ほど昇降させれば、通常のスピードに戻ります。

## お手入れのしかた

- 水または中性洗剤を含ませた柔らかい布で、軽く拭いてください。
- ベンジン・シンナー・ワックス・化学ぞうきんなどで拭いたり、たわしでこすったりしないでください。
- お茶やコーヒーなどをこぼしたときは、乾かないうちによく拭きとってください。

## 仕 様

サイズ (使用時)	490(幅)×700(奥行)×1130(高さ)mm
(収納時)	490(幅)×250(奥行)×1130(高さ)mm
重 量	48kg
最大許容荷重	100kg
最大ストローク	580mm(座面高さ290~870mm)
座部回転角度	左右各90°
入 力 電 圧	AC100V 50/60Hz (コード長3m)
昇 降 速 度	14mm/sec.
定格消費電力	70W
ヒューズ	125V 5A
定 格 時 間	2分

## 品質表示

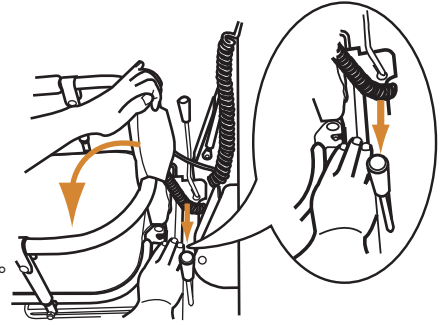
構造部材	機構部 金属(鋼) 肘掛け部 金属(鋼) 背もたれ部 金属(鋼) 座部 合板 脚部 金属(鋼) カバー 金属(鋼)
表面加工	金属部 メラミン樹脂塗装
張り材	合成皮革 スポンジゴム
クッション材	ウレタンフォーム

# 座部の収納

## 座部の収納のしかた

### 1 座部収納レバーを操作する。

- 手元スイッチは本体横上にあるフック掛けにかけてください。
  - 背もたれ後ろにある座部収納レバーをおしながら、背もたれを前に倒してください。
- ※座部は正面でロックされているときに収納することができます。  
正面でロックされていることを確かめてから、収納してください。

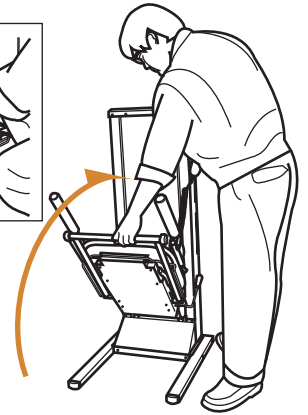
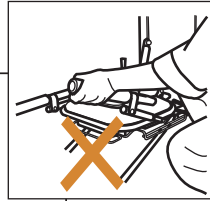


### 2 フットパイプを持ち上げ、座部を収納する。

- ※確実に最後まで収納しないと、座部が落下する危険性があります。
- 収納時、スイッチ操作を行わないでください。

#### ⚠ 注意

- 座部・フットパイプの収納時、可動部分に指などを入れない指などはさみ、けがをするおそれがあります。
- 座部収納時、肘掛けを持ち上げない肘掛けが破損したり、座部を正しく収納することができなくなります。
- 収納時、スイッチ操作を行わないでください。本体やコード線を破損するおそれがあります。



## 座部の収納のもどしかた

### 1 フットパイプと肘掛けを支えながら、座部を下ろす。

- 座部の収納をもどすときは、ゆっくりと下ろしてください。

#### ⚠ 警告

- 収納をもどすときは、フットパイプから手をはなさない座部が落下して、けがをするおそれがあります。

### 2 フットパイプを地面に下ろす。

- フットパイプを地面に下ろすときは、ゆっくりと下ろしてください。

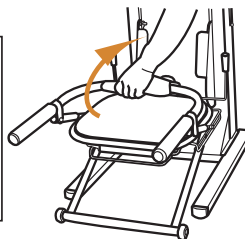


### 3 背もたれをもとにもどす。

- 背もたれは、カチッと音がするまで上に引き上げてください。

#### ⚠ 警告

- 背もたれをもとにもどすときは、コード線をはさまない破損・故障の原因になります。
- 座部・フットパイプ・背もたれをもとにもどすときは、可動部分に指などを入れない指などはさみ、けがをするおそれがあります。



#### お願い

収納された座部を元に戻す時は、座板裏の安全スイッチ用のバーは絶対に持たないでください。バーが変形し、はさまれ防止の安全機構が働かなくなることがあり、けがをするおそれがあります。



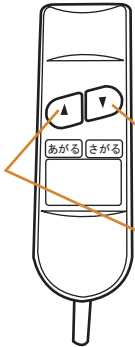
# 使いかた

## 電源コードを接続する。

- 電源プラグをAC100Vのコンセントに差し込んでください。

## 手元スイッチ

- 操作は、手元スイッチで行います。



### ⚠ 注意

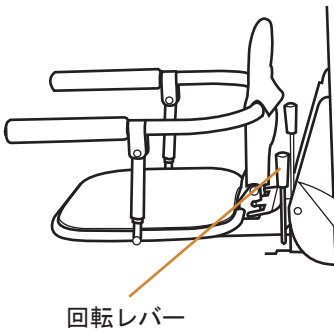
- 操作時以外は、手元スイッチのフックを、肘掛け又は本体横上にあるフック掛けにかけておく。  
破損・故障の原因になります。

押し続けると、座面が最低290mmまで下降します。指を離せば止まります。

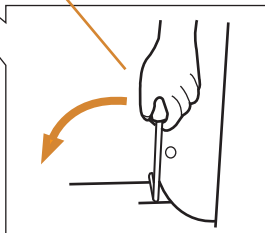
押し続けると、座面が最大870mmまで上昇します。指を離せば止まります。

## 回転レバー

- 操作は、座板後ろにある回転レバーで行います。  
回転レバーは左右にあり、どちらでも操作ができます。



- 回転レバーを前方に倒すと回転ロックが解除され、座部を回転させることができます。  
※座板は左右各90度の回転位置と正面以外では固定できません。  
※回転レバーを前方に倒しても回転しないときは座部を左右に軽く揺らしてください。



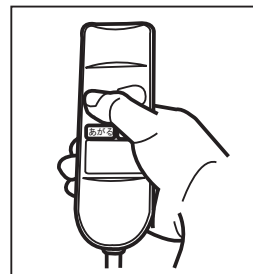
### ⚠ 注意

- 回転させたあとは、必ず回転レバーから手を離し、ロックされていることを確認して下さい。  
座部が回転して、すべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。

## 外出するとき

### 1 手元スイッチを操作する。

- 手元スイッチの△(あがる)を押し続け、座板を座りやすい高さに調整する。



### 2 座部後方にある回転レバーを操作する。

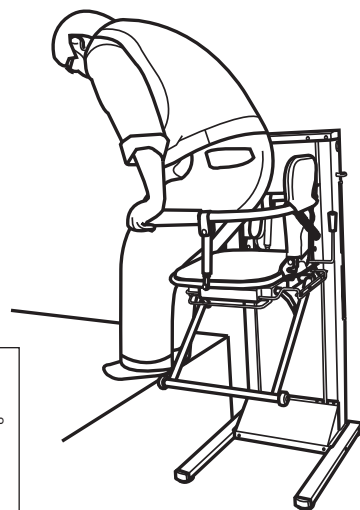
- 回転レバーを前方に倒し、座板をあがりかまちの方向に90度回転させる。
- ※座部は、左右各90度の回転位置と正面以外ではロックできません。回転後に、座部がロックされていることを確認して下さい。



### 3 腰をおろす。

この時、回転レバーには触れないでください。

- ※座部は左右各90度の回転位置と正面以外では、固定できません。回転しないことを確かめてから座ってください。
- 肘掛けに手を添えて、静かに腰をおろします。
- 足腰に負担をかけることなく座板に腰をおろすことができます。

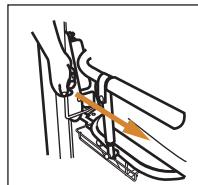


#### 警告

- 座板がまわる状態での上下動・立ち座りはしない  
座部が回転して、すべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。
- 座板の端に座らない
- 片側だけに衝撃や負担をかけない  
座板からすべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。

## 4 回転レバーを前方に倒し、体ごと、座部を正面位置に回転させる。

- 回転レバーは左右にあり、どちらでも操作できます。
- 回転させたあとは、必ず回転レバーから手を離し、ロックされていることを確認して下さい。
- フットパイプに足をのせて下さい。

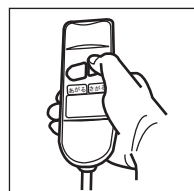


### 警告

- 回転時、座板の下に手を入れない  
手をはさんで、けがをするおそれがあります。

## 5 手元スイッチを操作する。

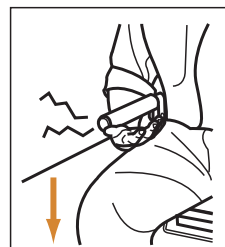
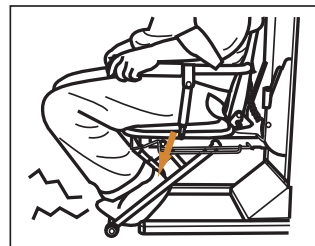
- 手元スイッチの▽(さがる)を押し続け、座板を座りやすい高さに調整する。  
座板が最低290mmまでさがるので、座った状態で靴をはくことができます。  
※靴を履いたあと、座板を座りやすい高さに調整して下さい。



座板下の安全バーに足や物がはさまると、安全スイッチが働き、座板は少し上昇して止まります。

### 注意

- 座板下降時、フットパイプに足をのせておく  
座板からすべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。
- 座板下降時、座板の下に足などを入れない  
座板と脚や床の間にはさまれて、けがをするおそれがあります。
- 座板下降時、肘掛けの下に手を入れない  
あがりかまちと肘掛けの間にはさまれて、けがをするおそれがあります。



## 6 腰をあげる。

- 肘掛けに手を添えて、静かに腰をあげます。

### 警告

- フットパイプの上には立たない  
フットパイプからすべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。

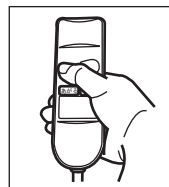


# 使いかた

## 帰宅したとき

### 1 手元スイッチを操作する。

- 手元スイッチの△(あがる)を押し続け、座板を座りやすい高さ  
に調整する。



### 2 腰をおろす。

この時、回転レバーには触れないでください。

※座部は左右各90度の回転位置と正面以外では、固定できません。

回転しないことを確かめてから座ってください。

- 肘掛けに手を添えて、静かに腰をおろします。
- 足腰に負担をかけることなく座板に腰をおろすことができます。



#### 警告

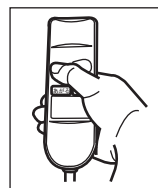
- 座板がまわる状態での上下動・立ち座りはしない  
座部が回転して、すべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。
- 座板の端に座らない
- 片側だけに衝撃や負担をかけない  
座板からすべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。

### 3 手元スイッチを操作する。

座板が最低290mmまでさがるので、座った状態で靴をぬぐことができます。

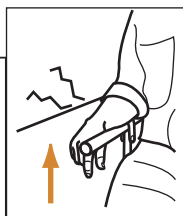
※靴をぬいだあと、あがりかまち上にて立ち上がりやすい高さ  
に調整して下さい。

- 手元スイッチの△(あがる)を押し続け、あがりかまち上にて、  
立ち上がりのしやすい高さ  
に調整する。



#### 注意

- 座板上昇時、フットパイプに足をのせておく  
座板からすべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。
- 座板上昇時、肘掛け上の手に注意する  
あがりかまちと肘掛けにはさまれて、けがをするおそれがあります。

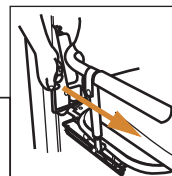


### 4 回転レバーを前方に倒し、体ごと、座部を あがりかまちの方向に回転させる。

- 回転レバーは左右にあり、どちらでも操作できます。
- 回転させたあとは、必ず回転レバーから手を離し、ロックされて  
いることを確認して下さい。

#### 注意

- 回転時、座板の下に手を入れない  
手をはさんで、けがをするおそれがあります。



### 5 腰をあげる。

- 肘掛けに手を添えて、静かに腰をあげます。

#### 警告

- フットパイプの上には立たない  
フットパイプからすべり落ちたり転倒して、けがをするおそれがあります。

